

# 自分をしっかり表現 できていますか？

保健管理・総合相談センター総合相談部門 講師  
赤坂 和哉 (あかさか かずや)



口腔科学教育部 博士課程2年  
藤本 けい子 (ふじもと けいこ)



医局員  
集合写真

こんにちは。今号のマイキャンパスライフを書かせていただくことになりました。大学院2年の藤本けい子です。鹿児島大学を卒業後、地元である徳島に戻り、大病院で研修を終え大学院へと進学しました。

この日は研究日となっています。摂食嚥下(せつしょくえんげ)の分野に興味があり、研究に診療にと忙しい日々を過ごしておりますが、私には小さいころから大事にしている趣味があります。それは徳島の伝統芸能である阿波踊りです。

私はこの阿波踊りが大好きで、よちよち歩きのところから近所の公園の夏祭りで踊りに参加して喜んでいました。小学生から地元の子供の日は研究日となっています。摂食嚥下(せつしょくえんげ)の分野に興味があり、研究に診療にと忙しい日々を過ごしておりますが、私には小さいころから大事にしている趣味があります。それは徳島の伝統芸能である阿波踊りです。

## My Life Situation

- サークル 硬式テニス (大学時代)
- 趣味 阿波踊り



All Dentalにて

「手を挙げて足を運べば阿波踊り」とうたわれるほど踊りに参加するのは簡単です。400年の歴史があるとはいえ、2拍子に合わせれば、それが阿波踊りです。徳島には有名連をはじめ、地域や学校、会社、気の合った仲間ごとに連と呼ばれる踊りグループがたくさんあります。徳島大学にも各学部には学生連があり、夕方頃にはあちらこちらから鳴物の音が聞こえてきます。あなたもお好みの連を訪ねて踊りの輪に参加しませんか。「神の二拍子、街を舞う。」去年の踊りポスターです。今年も「あっぱれ！夏の有頂天。」でした。



前夜祭にて



徳島阿波踊り空港にて



演舞場にて

## 偽りの自己

偽りの自己 (false self) という言葉聞いたことがあるでしょうか？ 偽りの自己とは精神分析の概念で、単純には社会に適応的な自己のことです。つまり、周りに合わせていく自己です。しかし、そうして「合わせて、合わせて」という感じで、「嫌われないうように」と生きていくと、喜びも悲しみもあまりリアルなものになくなっていってしまいます。そうした感情は、合わせた部分に対する喜びや悲しみに過ぎず、偽りの自己が中心になっていく人は、何か空虚な感じ、生き生きとした感じがなくなります。こうした生き方をしている人は、本当の自己 (true self) に目を向けてバランスを取る必要があります。

## 欲望する主体へ

人間は社会的な生き物です。他の人とまったく関わりなく生きていくことは非常に困難です。しかし、だからといって他者や周りに合わせてばかりいては、先程も話したように、リアルに生きていくんだという感覚を持つことはできませんし、それほど人から嫌われることもありませんが、すぐく

好かれるということはありません。精神分析では「自らの欲望を譲らないこと」が重要視されます。それは、自分が欲望のままに好き勝手することを意味しているのではなく、リアルなもの (real self) に接近する一つの手立てを指し示しています。適応することには欲望を譲っていると、リアルな体験は遠のくと精神分析では考えるのです。

## 答えはない

リアルなものに接近して、それを用いて自分を再構築することが精神分析の目指すところです。「再構築の結果、どんな形の自分になるのか？」ということに関しては「答え」はありません。一人一人が自分固有のリアルさに出会い、自分だけの形を見つけていきます。

## 総合相談部門で精神分析的な体験

ここまで話したことは、精神分析の話です。基本的には無意識的な過程における出来事です。精神分析はある意味

で無意識を意識化するためにはありますが、意識化することでこうした自分のことが見えてきます。総合相談部門では、ちょっとした悩みから深刻な悩みにまで応じています。「何か周りに合わせすぎている感じがする」、「嫌われないようにいい人を演じている気がする」、「自分の意見をなかなか言えない」、「きちんと他者とぶつかることができない」等の場合は、総合相談部門でカウンセリングを通して、精神分析的な体験をしてみるのもいいかもしれません。



総合相談室 (総合相談)

# 読者の言葉

卒業してからの進路とか、就職活動が少しわかってよかったです。先輩方の経験談もたくさん聞けたらと思います。

ご意見どうもありがとうございます。就職活動は、保護者の皆様方にとって常に関心が高い内容です。『とくtalk』では例年秋号(今回の号)で「就職活動記」を掲載しております。昨年度卒業の先輩に執筆をお願いしております。誌面のスペースの関係で1年間に2名分の記事しか掲載できませんが、例年貴重な体験談を知ることが出来ます。就職活動の詳細は、学生個人個人によって異なり、ひとまとめにすることは困難ですが、大学としてもサポートの体制をよりいっそう充実させていきたいと考えております。